

館長のガラストーク



樹映「秋の景」

9月29日から「石井康治ガラスアート展～光と色彩のイリュージョン」が始まっていますので、その中から一点取り上げます。

石井康治（1946～1996）は1980年代から'90年代にかけて、華やかな色彩と流動的な形態で多くの人々を魅了したガラス作家です。デザイナーとしてガラス作りを始め、特に1991年に青森の三内丸山に工房を構えてから'96年までの間に、自由な造形を行うスタジオグラス運動の流れやヴェネチアンガラスの技法などを取り込み、季節の彩りをガラスの光と色彩の中に映し出した芸術性の高い作品を次々に発表しました。

「樹映「秋の景」」（1995年）もその一つで、熱い素地に軟らかいガラスの塊をくっつけて引っ張り、細い棒状にしてまた他の場所にくっつけるという作業を繰り返し、そこに金箔や色ガラスの粉末を巻き取って、霧の中に浮かび上がるような樹林をあらわしています。

このような表現は'80年代の終わりから見られますが、青森工房の時の作品では金箔や色斑の上からもう一度色ガラスで樹木の造形を重ねているので、色彩がより鮮明になり、季節の彩りが強調されています。今回は「春の景」と「冬の景」も一緒に展示してあるので比較してみてください。

妖精の森ガラス美術館 館長 畠山 耕造

＜展覧会情報＞ 石井康治ガラスアート展～光と色彩のイリュージョン
2010年9月29日(水)～2011年3月28日(月)

＜記念講演＞ 10月31日(日) 14:00 妖精の森ガラス美術館 2階学芸研究室
講師 金子 賢治 茨城県陶芸美術館館長 前東京国立近代美術館工芸課長

お問い合わせ 妖精の森ガラス美術館 電話 (0868) 44-7888

ご協力をお願いします。

道路交通センサス

10月から11月にかけて、道路交通センサス調査の一環として「自動車起終点調査」(自動車利用に関するアンケート調査)を行います。

この「自動車起終点調査」は、交通の流れのもととなる車の一日の動きについて、どこからどこへ、どういう目的で移動したかなどを調査するもので、現在の交通実態を把握し、住み良いまちづくりや将来の道路計画の基礎資料とするものです。

調査は、岡山県内から無作為に選出された約26,000世帯を調査員が訪問し、調査票を配布して記入方法などを説明いたします。

また、記入していただいた調査票は、後日、調査員が回収に伺います。

本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をよろしくお願いいたします。

※当調査における調査員は、岡山国道事務所が発行した身分証を携帯しています。

実施主体

国土交通省 岡山国道事務所

問い合わせ先

岡山県起終点調査サポートセンター
電話 0120-33-0790

